

分析結果報告書〔3〕 1/3

1. 3 模擬排水試料（全窒素）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド 25) 3. MLAP 4. (上記1~3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	
経験年数(年)	()年
実績(年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

1回目(Nmg/L) 注1~3)	() Nmg/L
2回目(Nmg/L) 注1~3)	() Nmg/L
3回目(Nmg/L) 注1~3)	() Nmg/L
Z-スコアの報告書資料編への記載 注4)	1. 希望する 2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、ND と記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

<分析方法等>

試料受取日 注)	()
分析開始日 注)	()
分析終了日 注)	()
分析方法	1. 総和法 2. 紫外吸光光度法 3. 流れ分析法 4. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

注) 半角で記入する 例: 2020/7/28

<総和法-硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析>

試料希釈率 注)	()
試料量(mL)	() mL
蒸留方法	1. 単蒸留 2. 水蒸気蒸留
蒸留フラスコ内液量(mL)	() mL
アンモニア除去留出液量 (mL)	() mL
デバルタ合金の添加量(g)	() g
吸収液	1. 硫酸 25 mmol/L 2. その他()
吸収液量(mL)	() mL
硝酸イオン・亜硝酸イオン留出液量 (mL)	() mL
留出液の定容量(mL)	() mL
留出液の分取量(mL)	() mL
フェノールとの反応温度(°C)	() °C
フェノールとの反応時間(分)	() 分
測定波長(nm)	() nm

注) 例: 試料を20倍に希釈した場合は20と記入する。希釈しない場合は1と記入する。

分析結果報告書〔3〕 2/3

<総和法－アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析>

試料希釈率 注)	()
試料量(mL)	() mL
有機物分解時間(分)	() 分
蒸留方法	1. 単蒸留 2. 水蒸気蒸留
蒸留フラスコ内液量(mL)	() mL
吸収液	1. 硫酸 25 mmol/L 2. その他 ()
吸収液量(mL)	() mL
硝酸イオン・亜硝酸イオン留出液量(mL)	() mL
留出液の定容量(mL)	() mL
留出液の分取量(mL)	() mL
発色方法	1. ナトリウムフェノキシド 2. サリチル酸ナトリウム
発色試薬との反応温度(°C)	() °C
発色試薬との反応時間(分)	() 分
測定波長(nm)	() nm

注) 例：試料を 20 倍に希釈した場合は 20 と記入する。希釈しない場合は 1 と記入する。

<紫外吸光度法>

試料希釈率 注)	()
試料量(mL)	() mL
ペルオキシ二硫酸カリウムのアルカリ性溶液の添加量(mL)	() mL
分解瓶の種類	1. 四ふっ化エチレン樹脂製の瓶 2. 耐熱・耐圧ガラス製の瓶 3. その他 ()
分解瓶の容量(mL)	() mL
加熱分解温度(°C)	() °C
加熱分解時間(分)	() 分
加熱分解後の試料の分取量(mL)	() mL
加熱分解後の試料の pH 調節	1. 塩酸(1+16)を添加 2. その他 ()
測定波長(nm)	() nm

注) 例：試料を 20 倍に希釈した場合は 20 と記入する。希釈しない場合は 1 と記入する。

<流れ分析法>

試料希釈率 注 1)	()
試料注入量(μL)	() μL
測定方法	1. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・紫外検出 FIA 法 2. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・カドミウム還元吸光度 FIA 法 3. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・紫外検出 CFA 法 4. ペルオキシ二硫酸カリウム分解・カドミウム還元吸光度 CFA 法 5. その他 ()
測定装置メーカー	()
測定装置型式	()
還元効率の確認(%) 注 2)	() %
分解率の確認(%) 注 3)	() %
繰り返し回数(回) 注 4)	() 回
繰り返し性 CV(%) 注 4)	() %
測定波長(nm)	() nm

注 1) 例：試料を 20 倍に希釈した場合は 20 と記入する。希釈しない場合は 1 と記入する。

注 2) 還元カラムを使用する方法(2 又は 4)では、硝酸体窒素の標準液を用いて亜硝酸体窒素への還元効率を求めている場合に記入する。

注 3) 有機体窒素(尿素)の標準液を用いて硝酸体窒素への分解率を求めている場合に記入する。

注 4) 検量線の間濃度の検量線用標準液(硝酸体窒素標準液)を用いて繰り返し測定して繰り返し性(相対標準偏差、CV%)を求めている場合に記入する。

<標準液>

標準液メーカー名	()
使用時の濃度保証	1. 保証期間内 2. 保証期間超過
ファクター	()
Lot番号	()

分析結果報告書〔3〕 3/3

＜検量線（1）＞注1）

検量線の点数	()
検量線の作成範囲 (Nmg/L)	最小 () ~ 最大 () (Nmg/L)
標準液濃度の表示 注2)	1. 窒素 (N) 2. 硝酸イオン (NO ₃ ⁻) 3. 亜硝酸イオン (NO ₂ ⁻) 4. アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺) 5. その他 ()
試料の指示値 (平均)	()
空試験の指示値 (平均)	()
検量線最高濃度指示値 (平均)	()
分析方法の下限値(Nmg/L)	() Nmg/L

注1) 総和法の場合は、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析について記入する。
注2) 検量線の作成に用いた標準液濃度の表示方法を示す。

＜検量線（2）＞注1)

検量線の点数	()
検量線の作成範囲 (Nmg/L)	最小 () ~ 最大 () (Nmg/L)
標準液濃度の表示 注2)	1. 窒素 (N) 2. 硝酸イオン (NO ₃ ⁻) 3. 亜硝酸イオン (NO ₂ ⁻) 4. アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺) 5. その他 ()
試料の指示値 (平均)	()
空試験の指示値 (平均)	()
検量線最高濃度指示値 (平均)	()

注1) 総和法の場合のみ。アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析について記入する
注2) 検量線の作成に用いた標準液濃度の表示方法を示す。

＜試料の保存状況＞

保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 ()
試料の保存処理	1. 行った その方法 () 2. 行っていない
保存時間 (時間) 注)	() 時間
保存温度 (°C)	約()°C

注) 時間単位で整数を記入する (例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--